

【 地理歴史 日本史B 3学年 】

授業者 佐賀県立厳木高等学校 教諭 野副 修平

◇単元名

第4編 近代日本の形成と東アジア

第1章 明治維新と立憲体制の成立

(桐原書店「新日本史B」)

◇単元の目標

- ・日本が国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、開国から明治維新に至るまでの過程を社会や経済面での変化と関連させて考える。
- ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。

◇本時の目標

- ・開国前の世界情勢に触れ、幕府が開国に至った背景を理解する。
- ・ペリーの来航を契機として、幕府が開国へと向かう過程を学び、開国が幕府に与えた影響を理解する。さらに、日米和親条約の内容について学ぶ。
- ・日米修好通商条約の締結過程とその内容を学ぶ。

◇配慮や工夫

本時の学習は、開国前の世界情勢やペリー来航を契機として幕府が開国に至った背景を理解することをねらいとしている。学習内容を理解する上で重要語句が多く、それらを正しく理解する必要がある。そのため、電子黒板で視覚的資料を提示したり、ワークシートを工夫して書く量を調整したりすることなどが必要となってくる。

そこで、本時の学習において次のような配慮や工夫を行っていく。

導入では、見通しをもたせるために、中学校で学習した「開国」について振り返らせる。その際、振り返った内容を確認することができるように、発言内容を板書する。また、今学習している内容を示して、授業の途中でも学習の流れを確認することができるように学習の流れを黒板に掲示する。

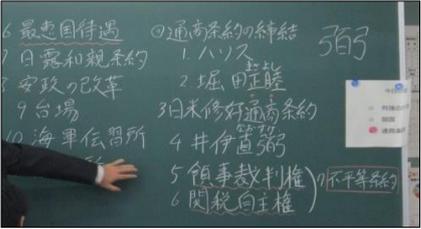
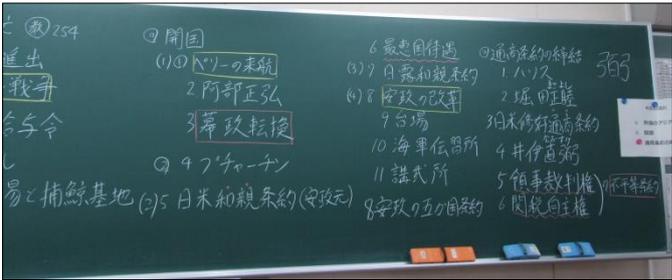
展開では、電子黒板で、教科書の図や絵を拡大したり、教科書には掲載されていない絵や図を提示したりする。生徒は、視覚的な資料や日常的に知っている言葉や写真を手掛かりにすることで、当時の日本の様子が想像しやすくなり、学習課題について自分の考えをもちやすくなる。また、教師が黒板に書く量やワークシートに記載する内容を精選することで、生徒の書く時間が少なくなり、学習に参加しやすくなる。板書では、色チョークを活用することで、生徒が重要語句に気付き、学習内容を記述でまとめる活動の際のヒントになるようにしたい。その際、生徒が考えをまとめやすくなるように、必要に応じて少人数で話し合う場を設ける。

まとめでは、ワークシートや板書のキーワードを基に、学習した内容を振り返らせ定着を図るようにする。

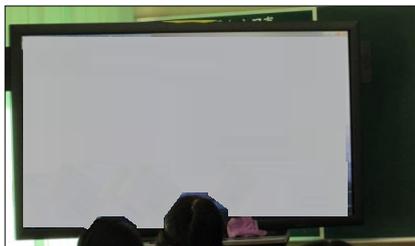
次の「本時の学習活動と具体的な学習環境」の「具体的な学習環境等」にある**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**とは、授業者が特に工夫をして取り入れたり、生徒アンケート等で効果が表れていたと捉えたりしている学習環境です。具体的な内容については、後の「取り入れた学習環境の実際と生徒の様子」で詳しく説明しています。また、各**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**の下にある〈 〉内の言葉は、生徒が抱える苦手さの領域を示しています。

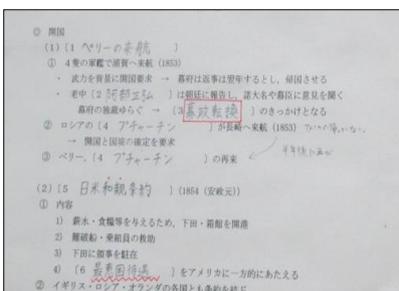
◇本時の学習活動と具体的な学習環境

過程	学習活動	具体的な学習環境等
導入	1 中学時に学習した「開国」について振り返り、本時の内容を確認する。	・中学時に学んだ「開国」から連想される言葉を発表させ、本時の内容につなげる。その際、振り返った内容を確認することができるように、発言内容を板書する。 ・本時の学習内容を黒板に掲示したり、学習する教科書のページ数を確認させたりする。

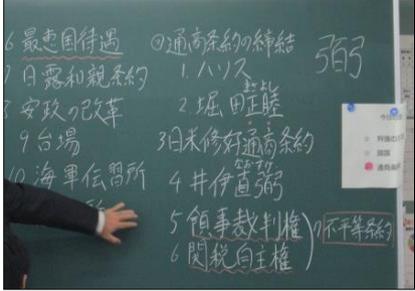
展開	<p>2 開国前の世界情勢について考える。</p> <p>3 開国と日米和親条約について考える。</p> <p>4 日米修好通商条約について考える。</p> <p>5 幕府が開国に踏み切った理由を考える。</p> <p>(1) 「幕府はなぜ開国に踏み切ったのか」についてワークシートに書く。</p> <p>(2) 自分の考えを周りの生徒同士で話す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や電子黒板で拡大した図を用いて、説明する。 【学習環境Ⅰ】 説明の際は語句の意味等に触れながら、ゆっくり、繰り返し話す。 重要な語句は色チョークで強調する。 難しい漢字にはふりがなを付ける。 記入する語句を精選したワークシートを配布する。 【学習環境Ⅱ】  <ul style="list-style-type: none"> ペリー来航の意図について考えやすくするために、電子黒板で写真や地図を提示する。 【学習環境Ⅰ】 当時の日本の様子をイメージしやすくするために、日常的に知っている言葉や写真を電子黒板で提示する。 【学習環境Ⅰ】 語句を書き写させる際に、間違いやすい漢字について言葉を掛け、その文字を大きく板書する。 <ul style="list-style-type: none"> 日米和親条約と日米修好通商条約について異なる点を色チョークで示しながら説明する。 【学習環境Ⅲ】  <ul style="list-style-type: none"> 板書にある重要語句を色チョークで強調する。それらの中から3つの語句をキーワードにして、幕府が開国に踏み切った理由について文章で表現させる。 【学習環境Ⅳ】 書いたことを基に少人数での話し合い活動を取り入れる。 【学習環境Ⅳ】 
まとめ	<p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートや板書のキーワードを基に、学習した内容を振り返らせる。 次時に学習する内容を伝える。 

◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

<p>学習環境Ⅰ 〈見ること〉</p>	<p>電子黒板を活用して教科書に出ている歴史用語や地名について、具体的な場所や物を地図や写真で示したり、教科書の図を拡大して提示したりする。</p>
<p>取り入れた 意図</p>	<p>歴史用語や地名についてイメージすることが苦手な生徒にとって、電子黒板で具体的な物や場所を示したり、教科書の図や資料を拡大して提示したりすることで、説明の内容や大事なポイントが分かりやすくなるようにする。</p>
<p>[資料を拡大して提示する]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>電子黒板でアヘン戦争に関する代表的な絵を拡大して、中国とイギリスの2隻の船を提示した。両国の船を比較することで生徒は構造の違いに気付くことができた。写真を拡大し焦点化することで、より具体的に開国前のヨーロッパ列強とアジア諸国の力の差を考えることができたようだ。</p>
<p>[地図の縮尺を変化させて提示する]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>インターネットの地図ソフトを活用して、授業で用いられる地名や場所を確認した。地図の縮尺を変化させることで、浦賀と江戸の位置関係を実際に確認し、ペリーが浦賀に来航した影響を具体的に考えることができたようだ。</p>
<p>[学習環境の考察]</p> <p>言葉のみの説明だけでは、内容をイメージすることが苦手な生徒も、地図や写真を提示したことで、重要語句や歴史事象について理解しやすくなったと考えられる。また、これらの学習環境を取り入れたことで、生徒は学習内容を具体的に意識することができたと考える。</p>	

<p>学習環境Ⅱ 〈書くこと〉</p>	<p>記載する内容を精選したり、生徒が書く量を調整したりしたワークシートを準備する。</p>
<p>取り入れた 意図</p>	<p>板書を時間内に書き写すことが苦手な生徒にとって、ワークシートを使用することで短い時間で書き写し、話を集中して聞くことができるようにする。</p>
<p>[穴埋め形式のワークシートを用意する]</p> 	<p>生徒の取組の様子</p> <p>主に重要語句を書き入れるようになっていたので、ノートに書き写す作業より、短時間で記入が終わっていた。書き写した内容について、教師が説明するときには、ほとんどの生徒が、ワークシートを書き終わり、顔を上げて説明を聞いていた。</p> <p>また、ワークシートの穴埋め欄に数字を振り、板書する際にその数字を対応させたことで、ワークシートの記入場所を見つけて、ほとんどの生徒がすぐに書き込む様子が見られた。</p>
<p>[学習環境の考察]</p> <p>多くの量を書き写すことが苦手な生徒も、記述する語句を精選した穴埋め形式のワークシートを使ったことで、書く量が減って、教師の説明を聞くことに集中できたと考える。</p>	

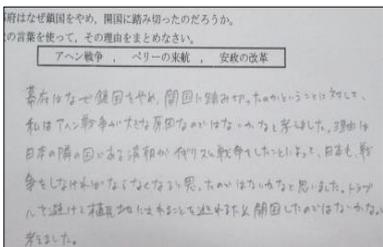
学習環境Ⅲ 〈見ること〉	板書の重要語句に色チョークを用いて強調をし、生徒にワークシートに同じように線を引くように促す。
取り入れた 意図	大事なポイントを意識しながら考えることが苦手な生徒にとって、重要語句を視覚的に確認できるようにすることで、要点やキーワードに気付き、学習の定着につながるようにする。

<p data-bbox="204 295 593 324">〔板書の重要語句に印を付ける〕</p> 	<p data-bbox="699 295 922 324">生徒の取組の様子</p> <p data-bbox="699 336 1492 504">重要語句を色チョークで強調することで、生徒はワークシートに同じように線を引いたり、色ペンで記述をしたりと思いの方法でアクセントを付けていた。そうすることで授業の整理やテスト前の勉強に役立つと考えている生徒もいた。</p> <p data-bbox="699 515 1492 672">また、最後のまとめの記述部分でも板書の中にあるキーワードを色チョークで強調したことで、生徒は授業のどの過程で用いられた言葉なのかを視覚的に確認し、考えをまとめる際の役に立てていた。</p>
--	---

<p data-bbox="143 750 367 779">〔学習環境の考察〕</p> <p data-bbox="127 790 1492 907">授業のポイントとなる語句等を強調することはワークシートの整理にもつながり、生徒の理解を促すと考えられる。また、テスト前などにワークシートを見直したときに、整理しやすく学習の定着につながっていくと考える。</p>	
--	--

学習環境Ⅳ 〈話すこと〉	板書にある重要語句をキーワードにして、本時の学習内容について文章で記述させる。また、少人数グループでの話し合い活動を取り入れる。
取り入れた 意図	授業理解を確実なものにするために、記述によるまとめを行った。その際にキーワードを設定したり、少人数で話し合いを行ったりすることで考えをまとめやすくする。

<p data-bbox="231 1160 566 1189">〔少人数で考えを出し合う〕</p> 	<p data-bbox="699 1160 922 1189">生徒の取組の様子</p> <p data-bbox="699 1200 1492 1451">文章で表現することに難しさを感じる生徒がいたが少人数グループで話し合うことで、本時の学習内容を振り返りながら自分の考えをまとめようとする姿が見られた。また、他の生徒の文章表現を参考にしたり、語句の意味を再確認したりするなど、授業ではうまく理解できなかったことを補い合い、記述につなげようとする姿も見られた。</p>
--	---

<p data-bbox="215 1500 582 1529">〔キーワードを用いたまとめ〕</p> 	<p data-bbox="699 1500 922 1529">生徒の取組の様子</p> <p data-bbox="699 1541 1492 1747">キーワードを手掛かりにすることで、ワークシートや教科書の文章を参考に、生徒はまとめの記述を試みていた。授業の理解がスムーズな生徒はある程度の文章量で記述していた。また、記述が苦手な生徒もキーワードを組み合わせることで、何とか記述しようと試みる様子が見られた。</p>
---	---

<p data-bbox="143 1814 367 1843">〔学習環境の考察〕</p> <p data-bbox="127 1854 1492 1982">本時の学習内容で重要な語句をキーワードにして文章で記述させることで、本時の学習内容を自分で振り返ることができ、学習内容の定着につながったと考える。その際、少人数での話し合い活動を設けたことが、生徒が自分の考えをもつことへの支援につながったと考える。</p>	
---	--